

読む人の  
幸せを  
心に願って  
作る

no.516

# 喜びの タネまき 新聞



写真・市谷 健 んるんケンケン、おっと!

## 広げよう愛の輪

障害者リーダーの海外留学派遣を応援しようと国際障害者年の一九八一年にスタートした「ダスキン愛の輪基金」が、昨年三十周年を迎えました。

三十年前、私はまだダスキんに入社しておらず、以前の仕事で障害のあるお子さんと一年間接したことがありました。その時は、その子とどう接していけばよいのか分からず、とにかく一生懸命、手助けをやっていました。一か月ほどして、お母さんから話があるといわれ面談しますと、「子どもにも過剰に支援しないでください。大きな病気や事故がなければこの子より私の方が先に死にます。その時、この子は一人で生きていかなければなりません。この子が本当に困っている時に、少しでもサポートしていただければ助かります。健常児のお子さんとは分け隔てなく接してください」とお願いされたことを鮮明に覚えています。子どもの将来を思う強い愛情を感じました。

あれから三十年、いまでは彼女も四十歳になっています。私が愛の輪活動を推進している企業に入社したのも何かのご縁。障害者も健常者も分け隔てなく、共に助け合う社会を目指して、少しでもお役に立てるよう「愛の輪運動」をこれからも推し進めていきます。

株式会社ダスキン社長

山村輝治

## 第5弾ダスキン大掃除川柳コンテストの入賞作品をご紹介します。

昨年の11月14日から今年1月10日まで「第5弾ダスキン大掃除川柳コンテスト」を実施し今年も大掃除にまつわる川柳を募集しました。また、今回初めて一般の部とは別に、小中学生の部を設けました。それぞれの家庭の大掃除から生まれた川柳をお子様から大人まで、幅広い世代の方が作品にして3万4453句をお寄せくださいました。

### 【やすみりえ氏総評】

2011年は色々世の中が動いた年でしたが、そのような状況でも皆さんが大掃除について詠みたい内容を見つけてくださったことに感謝致します。第5回目の選考を終え、各部門の大賞・優秀賞・入選それぞれに味わいのある作品を選べたと実感しています。被災地のことを思っ詠んだ作品が多く見受けられたのも今年の特徴でした。また「断捨離」は昨年引き続きよく使われた言葉。大掃除ならではの家族の思い出、家族の絆などを綴った句も沢山ありました。

## 大賞

### 一般の部

#### 平凡な幸せに床磨いてる

愛知県 完熟きのこ

言葉選びがとても素直で、誰もが共感しやすい作品です。また、穏やかな内容の奥に深いメッセージも感じられますね。移りゆく一年に思いを重ねつつ丁寧に掃除をしている様子が浮かびます。すつきりと焦点を絞って詠めています。

## 大賞

### 小・中学生の部

#### 「よし、始め！」冬の小さな運動会

新潟県 相澤知里

小中学生の部も、全体的になかなか出来が良くて粒揃いでした。その中でも特に輝いていた一句です。子供の頃はこんな気持ちで大掃除の時間を過ごしていたんだなアとしみじみ思い出す大人もいることでしょう。作者が楽しく大掃除に関わっている場面が見えてきて、とても微笑ましい内容です。

## 優秀賞

#### ◆茶柱が磨いた部屋で伸びをする

東京都 汐海岬

「茶柱」という言葉が良いポイントになり、大掃除を終えた充実感がしっかりと表現出来ています。

## 優秀賞

#### ◆多くの分残してあると母ニヤリ

広島県 自画じさお

ご家庭の様子がちらりと垣間見えてくる川柳。飾らずに詠んだ母と子のやりとりが魅力です。

#### ◆価値観の違いはいつもゴミに出る

東京都 酒井具視

おそらく夫婦を描いた一句でしょう。お互いのゴミを見てあれこれ言いながらも楽しく大掃除をしているのかもしれない。

#### ◆大掃除家の疲れをいやすとき

千葉県 タカユウ

純粹な目線で作った一句。家の汚れを「疲れ」と捉えた感性が光ります。

#### ◆お掃除は我家の絆プロジェクト

北海道 つば焼きイモ

家族のあたたかな雰囲気を感じた一句。身近な人との絆を詠まれました。

#### ◆光つてる窓・床・家族ピッカピカ

静岡県 ななちやる

「ピッカピカ」という言葉が、心の弾みまで伝えていきます。窓・床・家族、と並べたりリズム感も良いですね。

## 入選

1年で たった1日それが無理

東京都 方解石

いくつもの 昭和が消える大掃除

福岡県 お聖

ひとつ捨て 心もひとつ軽くなり

京都府 鳥人

ほこりより 嫁の機嫌を取りたくて

兵庫県 恐妻家

「押入れ」の名前に恥じぬ詰めつぶり

大阪府 あまがみジャガー

大掃除

さつきしたようなこの一年

神奈川県 五時ゆうこ

大胆に 捨てる女房に立ちすくみ

新潟県 はぎだめ男

福袋 スペース確保の大掃除

神奈川県 あじさい

天窓を 磨いて我が家宇宙船

新潟県 越後毒

なでしこに 負けない雑巾バス回し

大阪府 だいちゃんZ!

## 入選

掃除する 母の後ろにあこがれる

大阪府 リンゴ

うれしいな 今年は届く高い窓

東京都 キョンビー

僕んちも ミタさんいれば楽なのに

千葉県 べろべろパー

大みそか 障子がつり破れる日

大阪府 早川

「お父さん」 やさしく呼んでごみ渡す

大阪府 そうきんばいばい

母さんと

会話がふえる大掃除

石川県 隆景

大そうじ しない年には福来ない

愛知県 カツチ

大そうじ 補欠のボクも主戦力

熊本県 焼肉大好き

ぞうきんを 並べて皆でよいドン!!

千葉県 抹茶

## 手作りは、おいしさが違います 「みたらしだんご」

手作りの醍醐味は出来立てを食べられること。手軽に買えるみたらしだんごも家で作れば、思いのほかのもちもち感。市販の茹であずきやかぼちゃあんなどアレンジ次第。アツアツをお楽しみ下さい。

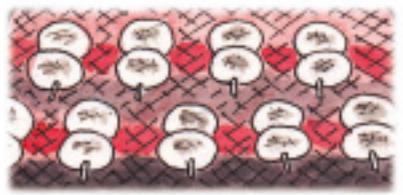


お料理研究家 こいけりえ

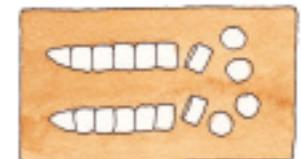
## おやつ時間 簡単、美味しい楽ラクレシピ



◎作り方(だんご18〜24玉)  
ボウルに上新粉100g、白玉粉100g、砂糖小さじ2を入れてよく混ぜ合わせる。混ぜ合わせた粉にぬるま湯200cc(35〜40℃)を少しずつ入れて生地を練り、粉がひとかたまりになるようにする。固まった生地は2等分にして、それぞれを棒状に伸ばす。  
1本につき9〜12等分に切り分けて、手のひらで転がしながらだんご状にまとめる。茹でるとひと回り大きくなり、食べづらくなるので小さめのサイズにすること。  
大きめの鍋に、たっぷりとお湯を沸かし、そこへだんごを入れる。だんごが浮かび上がったなら、それから3分くらい茹でる。茹で上がっただんごは氷水に入れて冷やし、ぬめりを取る。ざるに開けて水気を切り、キッチンペーパーを敷いたお皿にのせて、更に水気を取る。  
水気が切れたら、食べやすいように爪楊枝にだんごを2玉ずつ刺す。  
温めておいたオーブントースターに入れ、うっすら焼き目がつくまで焼く。



うっすら焼き目がつくまで焼く。



うっすら焼き目がつくまで焼く。

●みたらしあん(18〜24玉分)  
しょう油、砂糖、みりん各大さじ2、水大さじ4を鍋に入れ、よくかき混ぜながら弱火にかける。沸いてきたら火から外して水溶性片栗粉大さじ1を加えてよく混ぜ、しっかりとろみがついたら完成。  
●かぼちゃあん(18〜24玉分)  
かぼちゃ150gは皮をむいて5〜6等分に切り分け、軽く水をかけふんわりラップをし、電子レンジで3分加熱する。そこへ砂糖、みりん、牛乳各大さじ1をかけて再びラップをし、更に1分加熱する。やわらかくなったら、マッシュャーで潰しよく練ると完成。  
◎仕上げ  
焼きたてだんごにあたたかいタレ。お店で買いたいものとは違った、手作りならではの美味しさ。市販の茹であずきも利用できます。



でんごあんがり



「おはしつかえるよ!」  
熊本県菊陽町 岩田敏子



「ネェネ、散歩いこ!」  
静岡市 折原菊代



「ひよこだったんだけどね…」  
長崎県長与町 児玉恵子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております!  
(詳細は7ページ)

## みんごと一緒に!

今回はヒマラヤのお話。  
天上の散歩道に遊んだなつかしい思い出です。

## 「小さなシエルパ」



絵と文 中村みつを

イラストレーター、画家。  
絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一歩二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録14年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に關はるぼる」(山と溪谷社)、「お江戸超低山さんぽ」(書肆侃侃房)、「森のくらし」(リヨン社)など。

山好きなら一度は、世界最高峰

のエベレストを間近に見てみたいものだ。ぼくはあれこれやりくりして憧れのヒマラヤに旅立った。

ネパールのシエルパ族の里、そしてエベレスト登山の拠点でもあるナムチエバザールに着いたのは、麓を出発して2日目のこと。村のメインストリートには旅人のためのロッジをはじめ、郵便局、登山用具店、さらにベーカリー、スーパーまであり、水力発電で電気も通っている。酸素の薄いことを

除けば、ここがヒマラヤの奥地とは思えないほどだ。

ナムチエの標高はすでに

3400mを越えている。

目的地のエベレストを間近に望

むカラパタールは標高5545m、

酸素は平地の半分。高山病を防ぐためにも高所順応は欠かせない。

時折頭痛の始まったぼくは2日間ナムチエで滞在することになった。

「シャンボチエにロッジを建てたので来ませんか」一緒に歩くナムチエ出身の山岳ガイド、フィンジョンさんが笑顔で誘ってくれた。村の裏手にある急な登りを越えると、庭園のようなシャンボチエの丘に出た。その一角に彼の自慢のロッジがあつて、目の前にはヒマラヤの巨峰が勢揃い。一番奥には天を突いた

エベレストがちょこんと顔をのぞか

せている。初めて対峙する神々の座。ぼくは壮絶な銀色の風景に声が出ないほど感動していた。

奥さんと子どもたちの出迎えを受け、簡素な室内に入ると生活に必要な最小限のものだけがあつた。ふかしたてのジャガイモとゆでタマゴをごちそうになりながら、フィン



ジョンさんに礼を言うと「丘の上を

歩くといいですよ」と小さなガイドをつけてくれた。いかにもワンパク

そうな息子のテンジン、そしてグレイの民族衣装がよく似合った姉のメンドー。幼いふたりは、はにかみながらぼくを天上の散歩道へと案内してくれた。

ウスユキソウの咲く小径を歩く時、メンドーが小さな声で何か歌っている。それに合わせるようにテ

ンジンがスキップしている。ぼくも

リズムに合わせたいところだが、こは富士山より高い雲の上。天使の真似をするとたちまち呼吸が乱れて息苦しい。「ビスターリ(ゆっくり)」と声をかけると、ふたりは立ち止まって待っていてくれた。

小さな茂みを抜けると眼下に村が広がって見えた。ぼくがその村を指さすと、テンジンは胸を張って「クムジュン」と教えてくれた。たしかこの村には学校があるはず。そうか、テンジンは学校を見せたかったんだ。きっと、ふたりとも学校へ通うのを楽しみにしているんだろう。

ぼくはトレッキングしながらたくさんの子どもたちに出会った。ヤク(牛の一種)の世話をする小さな男の子、赤ん坊をあやししながら水汲みを手伝う女の子。どの子どももみなクリクリとした透明な瞳を持っていた。けっして生やさしくない環境のなかで、子どもたちは生活の中からも本当に大切なものを学ぼうとしているように思えた。

帰りしな、ぼくはふたりの写真を撮りたいと頼んだ。少し緊張した彼らは、白銀のヒマラヤを背にして立ってくれた。ファインダーを覗くと、力強く生きる小さな姿があつた。





古いタオルで

福岡市 大楠薫

娘が中学3年生になりました。義務教育の9年間、ぞうきんは古いタオルを縫って、持たせてきました。小学校低学年の時は、「みんな、うさぎやお花の模様だよ。無地は私だけ」高学年の時は、柄付きのタオルで作ると、「みんなは無地の白いよ。恥ずかしい」と娘。

中学は無地の白いぞうきんを作った。すると、「みんなは小さい時から買ってきた新しいぞうきんよ！」クラスの友達は小学校から、市販のぞうきんだったのかと気がついた。私は古い考えなのか、ぞうきんを買うことがどうしてもできません。娘は友達と違うので、不満だったでしょう。がまんしてくれて、ありがとう。時がたち、自分の子どもに、どんなぞうきんを持たせるのか、娘の考え方しだいだと思えますが、その日が来ることを心待ちにしています。

——お掃除してほんと、学校教育の一環ですね。



孫の気持ち

愛媛県西条市 江原哲治

松山に住んでいる孫娘は、いつも車でやってくる時に、車の振動や温度が気持ちいいのか、我が家に着いた時はぐっすり。「着いたぞー」の声で親に起こされると、ぐずって、玄関に来た時には親の後ろに隠れて、半泣き状態がいつものパターンだ。子どもだから当然である。

もの心ついた頃から、機嫌が悪い状態で玄関入りして、私たちを困らせてきた。それを自分で察して、今度は車内で寝ないように頑張る、すっきりした状態で、じいちゃん、ばあちゃんに会おうとするらしいが、やっぱり寝てしまふ。不覚にも寝てしまった悔しさと、寝起きの悪い自分に腹をたて、親の手をひっぱっては、またぐずっている。なんともいじらしい。私たちは、その孫の気持ちだけで嬉しいものです。

——おじちゃん、分かってくれたんだね。



けんちょう

山口県下関市 関京子

私の故郷山口には「けんちょう」と言う郷土料理があります。豆腐に人参、ゴボウなどの根菜を合わせて炒め、しょう油で煮たものです。各家庭でごま油や豚肉を用いるなどの違いはありますが、必ず外せないのが豆腐です。

私は父子家庭で育ちました。そのため、父は私を幼い時から台所に立たせ、料理を指南してきましたがそこは男親、やはり何かと手薄になります。あの「けんちょう」も我が家のちゃぶ台にのる物には豆腐が入っていませんでした。それが私たち親子には当たり前だったので。間違いだと教えてくれたのは、私が娘時代だった時の職場の先輩でした。正しい調理法を教えてもらい、そのお陰で結婚してから恥をかかずにすみました。残念なのは、父に本物の「けんちょう」を食べさせてやれなかったことです。

——娘の味こそがその味だよ(父)



マッサージ

京都市 近藤和

両親と同居しています。90歳をこえた父が背中を丸くして、皆と一緒にテレビを見ている。母には、小学生の頃からよく肩たたきをしてあげていた。今は、自己流だがマッサージには自信がある。最近では、毎晩テレビを見ながら、寝る前に両親の体をマッサージするようになった。

母はともかく、あらためて触れる父の体は、骨格がわかる程に細い。昔は骨太のガッチリした体格だった。背骨はまがって、あの父がこんなに…と、私も60歳を前にして気付かされた。若い頃、重い商品を肩にかついで苦労した証だろう。身を粉にして働き、家族を守り育ててくれたのかと思うと、父の後ろで思わず目頭が熱くなる。感謝の言葉を面とむかって言うのは照れくさいので、毎晩、気持ちをこめてマッサージをする。父の頑張りや苦労を思うと、真っ直ぐに生きねばと心する私である。

——ただただ、ありがとう、ですね。



カレー

鹿児島市 中川安子

ある日曜日の午後、小学4年生の孫娘と一緒にカレーを作ろうと言う。料理に関心があるらしい。「私が作るから見ててね」。早速材料を準備するとゴーグルを着けてタマネギを切り始めた。なるほど！と感心。次は人参とジャガイモの皮むき。便利なピーラーを使って熱心にむいていると思いきや、しばらくすると「パパちゃん、人参がこんなになっちゃった」と「ゴロゴロ笑いこぼしている。見ると人参は小指ほどの大きさになっていた。「だって、実と皮の色が一緒だもん。」とボツリ。お肉と不揃いの野菜が煮えると、ルーを入れ、とろみがついたところで出上がり！優しい孫の特製カレーを美味しくいただきました。「こちそうさま」。

——今日はがんばったの。



ゆったり

大阪府交野市 居田洋子

86歳になる父は野菜作りが大好きです。腰の痛みはあるけれど、電動自転車に乗って畑に出かけます。畑仕事をしている父はイキイキしていますが、家に帰ってからは「腰が痛い」と母にグチをこぼします。そのグチをうまく聞き流しながら、母は毎日を暮らします。そんな二人も夜になると一緒に歌を歌ったり、田舎の話をしてゆったりした時間を過ごしています。

戦争、病気、事故と幾度となく降りかかった災難を乗り越え、私達を育ててくれた両親を心から尊敬しています。

私も主人と結婚して30年。両親のように多少の口げんかしながらも、共に信頼し合って生きていきたいと思っています。

——一緒に歌うって、すずかしいですね。

「いっせーの、せっ!」



宮城県美里町 大沼あや子

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

あなたのお便りや写真をお寄せください

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先  
〒163-0223  
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号  
新宿住友ビル23階(私書箱47号)  
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室  
電話 03(5909)6703  
e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp

お知らせ  
書籍「ほほえみのひろば」発売中  
◎出版社:マガジンハウス ◎価格:1100円(税込)  
全国の書店で販売しています。

No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます  
http://www.duskin.co.jp/torikumi/tanemaki/index.html

●4-5ページの中村みつをさんのアトリエ  
〒167-0022 東京都杉並区下井草5-12-10-109

燈々無尽

助け合い  
だれの言う事が本当に正しいのか？  
だれについていったらよいのか？  
私は、「自分が正しい。まちがっていない。悪い事はしない」などとは言えません。それでも  
私は業の深い人間ですが  
私の周りの人を愛し  
私にふれる人々のしあわせを願う  
この人生を助け合ってゆきたい。  
ただそれだけ  
しかも、これが大きな使命感です。

鈴木清一

愛の輪からのコラム

誰もが心地よい暮らしって？

新連載「愛の輪からのコラム」で一緒に考えませんか？

年齢や障害のあるなしなどに関係なく、一人ひとりがイキイキと活躍できる社会を目指しているダスキン愛の輪基金から新しいコラムが始まります。次号から連載するこのコラムで、皆さんが普段、何気なく使っている乗り物やアイテムにまつわるエピソードから誰もが心地よく暮らすためのヒントを一緒に考えてみませんか？

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。  
☎06-6821-5270 HP (http://www.ainowa.jp/)  
※1981年に発足した「広げよう愛の輪運動基金」は財団法人から公益財団法人に移行し「ダスキン愛の輪基金」と名称を改めました。

🌱 **エコな取り組み ~徳島県上勝町~**  
**ごみを34分別している町があります!**

かみかつちょう  
徳島県上勝町では、なんとごみが34種類にも分けられているそうです。町の人は自分で出したごみを自分でステーションに持って行き、分別します。ごみは細かく分けるほど資源化されやすく燃やすぶんが減るから、とても環境に良いですね。“ごみゼロ”を目指している上勝町をお手本にしようと、たくさんの方が見学に来ているんですって。



●ダスキンでもさまざまなエコ活動を実践中。webで「ダスキンのエコ」を検索してね。

**ダスキンのお客様係募集中!!**

詳しくはwebで

お客様係

検索

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。



携帯からも  
アクセス

**お楽しみクイズ**

上勝町が34分別して  
いるものは?

ごみ箱  
いっぱい  
あったよ



正解者の中から30名様に  
「キッチンきれいセット」を  
**プレゼント!**



下記の要領でご応募ください。

- ハガキに  
①クイズの答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤年齢  
⑥性別 ⑦電話番号 ⑧ご利用のダスキン店名  
⑨この新聞内で好きなコーナーをご記入の上、  
下記あて先までお送りください。
- クイズ専用のあて先  
〒163-0265 ※郵便番号のみで届きます。  
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.516」  
クイズプレゼント係
- 締め切り 平成24年5月18日(金)当日消印有効
- ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。
- 当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。  
(平成24年6月上旬お届け予定)
- 応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703  
※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

no.514のクイズの答えは「緑(化)」でした。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報の取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。

個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

**0120-100100** www.duskin.jp